

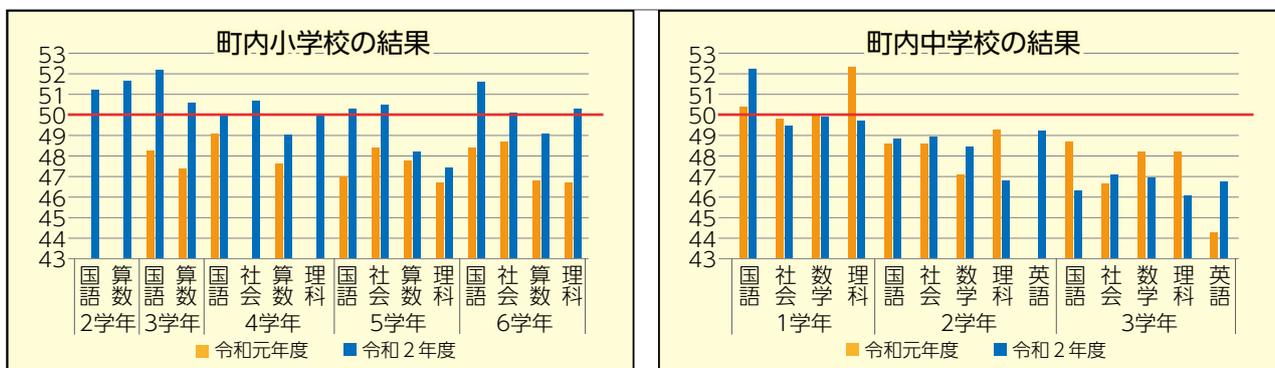
# 本年度の小・中学校の標準学力調査の結果について

本町では、文部科学省が「学習指導要領」に定める目標に対し、文部科学省の全国学力学習状況調査（本年度中止）とは別に、町内児童生徒の達成状況を評価する「標準学力調査」を独自に取り組んでいます。

## 調査の概要について

- (1)実施日 令和2年8月26日、27日 ※コロナ禍のため、昨年度よりも遅い実施時期となりました。
- (2)実施学年 本年度町内全小学校2学年から中学校3学年
- (3)実施教科 小学校（2、3学年）国語、算数（4、5、6学年）国語、社会、算数、理科  
中学校（1学年）国語、社会、数学、理科（2、3学年）国語、社会、数学、理科、英語
- (4)内容 前年度学習した範囲（例）小学校6学年であれば、前年度小学校5学年の学習内容
- (5)目的 児童生徒の学力向上に向けて、学習内容や学習方法の改善に役立てる。

■今年度の結果 ■同一集団の昨年度の結果（例）小学校6学年であれば小学校5学年時の結果  
 全国平均—を50としたときの、町内小中学校の各教科平均値



## 本町の概要

昨年度は、全学年・全教科（小16教科・中14教科）中、全国平均を超えた教科は、3教科にとどまりましたが、本年度は、小学校を中心に13教科となりました。

さらに、全国平均（50）を超えることはもちろん大切だと考えていますが、それ以上に、個々の児童生徒および集団として、その学年が伸びているかが大事です。

この調査は昨年度から開始したものです。昨年度の結果を踏まえ分析すると、次のことが見えます。

《小学生》全ての学年・教科で、昨年度を上回りました。特に、6学年の伸びが目立ちました。

《中学生》2学年を中心に、半数の教科が昨年度を上回りました。

《共通》昨年度、本年度ともに国語、算数・数学、英語を中心として「読むこと（読解力）」に課題がありました。

## 今後に向けて

各校で、児童生徒の実態に応じた学習指導を行うことはもちろんですが、町として次の2点に取り組めます。

### ●課題である「読解力の向上」について

読解力の向上には、やはり日頃から「多くの書物等を読むこと（多読）」が重要です。そのためには、読書だけではなく、非連続型テキストと言われる写真や図などが入った新聞など、種類の異なる複数情報を読むことで効果が上がります。さらに、本や新聞などを読み、多くの言葉や文字に触れることは、言葉の表現力の豊かさにつながります。本町で「学びの土台」として取り組んでいる「読書活動」と「別海町新聞の日」など、新聞を教育に活用する「NIE（Newspaper In Education）」を一層推進します。

●この標準学力調査では、全学年・全教科において、学年や学級だけではなく、児童生徒一人一人に合わせた復習教材がAIにより作成されます。これを活用し、個別に合わせた学習に取り組めます。